


感動！体験！発見！アートを通して、山梨の偉人や伝統工芸に親しむ1ヶ月

富士山芸術祭 2026



古（いにしえ）の記憶と、現在（いま）が静かに響き合う。
4年に一度、アートの祭典。

Fuji Art Festival 2026

富士山芸術祭 2026 —— 郷土の資産を、世界の至宝へ。

山梨全域に「ひとつの世界観」を立ち上げる、4年に一度の芸術祭

会期：2026年10月17日～11月15日（約1ヶ月間）

次回は2030年。

富士山という世界遺産を舞台に、
山梨を「世界の憧憬（どうけい）を浴びる地」へと変える、「未来の資産へ変える先駆者」として貴社をお迎えいたします。

古(いにしえ)の記憶と、現在(いま)が静かに響き合う。
富士山芸術祭2026、が挑むテーマ
先人の叡智を、現代の資産へ——アート力を信じて。

第1回となる2022年の富士山芸術祭から4年。

私たちは準備期間の中で、山梨の土壌に深く潜り、文化の種を熟成させてきました。

その歩みの中で出会ったのは、400年以上もの時を超えて受け継がれてきた匠の技、

そして偉人が思索し、生きた場所が放つ圧倒的な気配でした。

しかし、そこには伝統工芸が直面する後継者不足という、切実な課題も横たわっていました。

山梨には、富士山や八ヶ岳の圧倒的な自然、独自の発展を遂げた数々の伝統工芸、

そして芳醇なワインや日本酒を育む清らかな「水脈」があります。

しかし、これらは今、個別の魅力として孤立し、一本の線として結ばれてはいません。

なかなか光が当たらない地域の静かな場所にこそ、私たちはアートによる再生の可能性を感じています。

過去と未来が交差する「今」というこの瞬間に。

甲州印伝、甲州水晶貴石細工、市川和紙から郡内織物まで。山梨独自の伝統工芸に刻まれた「声なき声」を、

国内外で活躍するアーティストが拾い上げる「翻訳者」となります。

孤立した「点」を、世界を貫く「線」へと繋ぎ、400年続く匠の技を、

世界中の誰とでも繋がれる「魔法の共通言語」であるアートとして再構築し、山梨の価値を世界へ向けて再定義します。

偉人の地

私たちの舞台は、美術館の白い箱（ホワイトキューブ）ではありません。
今も人々の営みが続く「生きた場所」こそが、アートの原点となり創造のパワーを生み出します。
そこには、目に見えない時間の層と、土地に刻まれた記憶があります。

アートは単なる展示物ではありません。
土地の層にそっと触れ、眠っていた物語を呼び覚ます「媒介」です。

作品は外から持ち込まれるのではなく、この土地とともに育まれるもの。
富士という日本の中心で、忘れかけていた「生きている」という実感を、
静かに、深く、心に取り戻す旅がここから始まります。



根津記念館



大村記念公園蛍雪寮（生家、蔵）



蕨崎宿豪商（小野金六）の蔵屋敷



平山郁夫シルクロード美術館



ポールラッシュ記念館



近藤浩一路記念南部町立美術館

「生きた場所」で、生命（いのち）の手応えを取り戻す

互いの呼吸を重ね、共に未来を紡ぐ

山梨が誇る数々の伝統工芸（甲州印伝、和紙、水晶研磨など）と、現代アート。
それは単なる素材と作家の関係ではなく、時を超えて呼び合う、二つの魂の邂逅（かいこう）です。

職人の指先に宿る数百年分の記憶に、アーティストが現代の息吹を吹き込む。
異なる時間を生きてきた両者が、静かに火花を散らし、
この場所でしか生まれえない「新しい伝統」の層を積み上げていきます。

山梨県の代表的な伝統工芸

甲州水晶貴石細工・貴宝石（江戸時代～）

甲州花火（1000年以上）

甲州印伝（400年以上）

富士勝山スズ竹細工（江戸時代～）

郡内織物・大石紬（1000年以上）

甲州武者のぼり・染物（江戸時代～）

甲州雨畑硯（700年）

市川和紙・西嶋和紙（1000年以上）

甲州手彫印章（江戸時代～）

甲州鬼瓦（江戸時代～）

甲州だるま（江戸時代～）

甲州養蚕（江戸時代～）



人がもつ感じるチカラ。それを最大限に引き出す唯一無二の場所。

「知の曼荼羅」を描く、山梨県全域のヒストリカル・ベニュー

かつてこの地を歩き、生きた人々の息遣いに、耳を澄ませる。

作品を通して、その場所が本来持っている気配（オーラ）に触れる体験。

■なぜ、偉人の地なのか？

私たちが美術館（ホワイトキューブ）を選ばない理由。

それは、アートを「鑑賞」するのではなく、その場所に共鳴した作家の魂と「対話」してほしいからです。

そこには、日本の歴史を動かした先人たちの「強靱な精神」と、土地に刻まれた「記憶の地層」が手つかずで残されています

現代アーティストは、この「磁場」に作品を置くことで、過去と現在を接続します。

来訪者は、アートを通して偉人の視点を追体験し、現代社会で見失いがちな「生きる指針」を、その場所から受け取るのです。

■ Venue List（知の曼荼羅）

【文学・静寂】禅の聖地「善光寺」「海禅寺」

Significance: 木々や禅の庭で、言葉にならない「静寂」と向き合う。

【科学・美】ノーベル賞の原点「大村記念公園螢雪寮（生家、蔵）」

Significance: 大村智博士が築いた美の殿堂。科学的な観察眼と、芸術への愛が融合する場所で、真理を探究する心に触れる。

【実業・革新】産業の記憶「旧二葉屋酒蔵」

Significance: かつて地域経済を支えた豪商の蔵。400年の時を超えて残る柱や梁の力強さが、ものづくりの原点を問いかける。

【風土・再生】芸術の拠点「南部町・富士川町エリア」

Significance: 伝統工芸（和紙・硯）の里。職人たちの営みが続く「生きた現場」で、素材と技術の未来を目撃する。

富士山芸術祭 2026 会場マップ

2022年は山梨県内10会場規模で開催。

2026年は県内17会場へ拡張(予定)し、富士山周辺に加えて峡中・峡北・峡南・富士五湖といった県内各地を結ぶ“広域回遊型”の芸術祭へアップデートします。

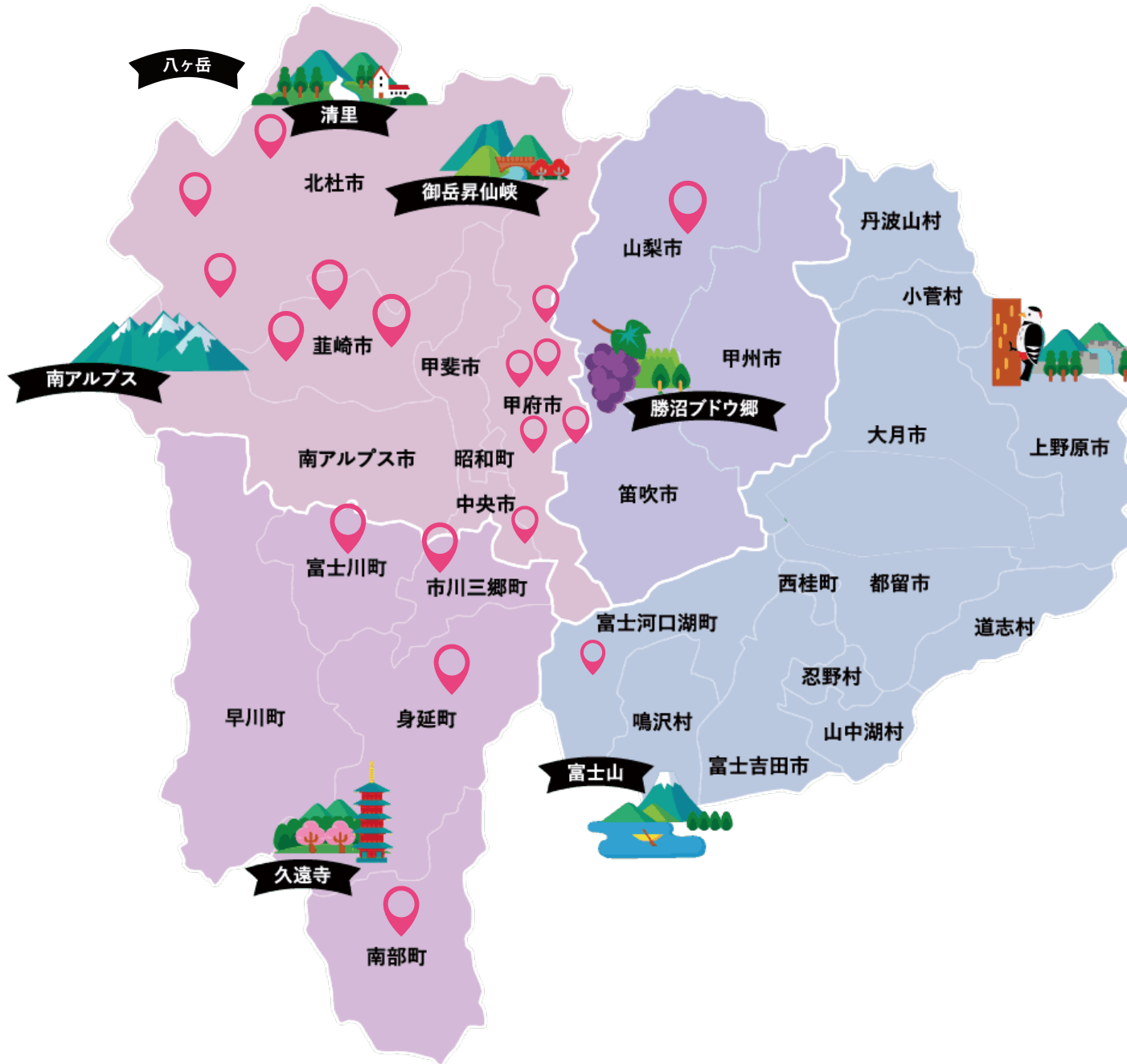
美術館・歴史的建造物・寺院・酒蔵など、地域の日常に根ざした多様な空間を舞台に、アートを通して山梨の文化資源を「点」ではなく「線・面」でつなぎ、来訪者の滞在価値と地域側の参画価値を高めます。本芸術祭を一過性のイベントに留めず、文化観光・地域産業・教育体験を横断する“文化プラットフォーム”として実装し、関係人口の創出と地域経済・文化継承の両立を目指します。

富士山芸術祭 2026 会場一覧 (最新版)

※2026年5月1日時点／

計画段階のため変更の可能性があります。

1. ART SPACE 夢 (甲府市)
2. こうふ亀屋座 (甲府市歴史文化交流施設／甲府市)
3. 甲斐善光寺 (甲府市)
4. 富岡家住宅 (甲府市)
5. 海禅寺 (中央市)
6. 根津記念館 (山梨市)
7. 明治天皇圓野御小休所 (韮崎市)
8. 韮崎大村記念公園 螢雪寮 (生家・蔵) (韮崎市)
9. 韮崎宿豪商の蔵屋敷 (韮崎市)
10. 工藤耀日美術館 (北杜市)
11. 平山郁夫シルクロード美術館 (北杜市)
12. ポール・ラッシュ記念館 (北杜市)
13. 旧二葉屋酒造 (市川三郷町)
14. スナンタ製作所 (富士川町)
15. 身延町中富別棟 (身延町)
16. 近藤浩一路記念南部町立美術館 (南部町)
17. 岳麓翠苑 (富士河口湖町)



伝統の守護者であり、革新の挑発者。 彼らの「手」と「眼」が、「質」と「精神」を決定づける。



【Rebirth & Zen / 再生と禅】

石田 泰道 (Taido Ishida) Role: 実行委員長 / 現代美術家 / 海禅寺住職
地域産業から出る「紙の廃棄物」を再利用し、新たな造形へと転生させる。
土地の文脈 (コンテクスト) を読み解き、資源と芸術を循環させる
アーティストとして、精神的な支柱を担う。



【Stone & Spirit / 石と精神】

雨宮 弥太郎 (Yataro Amemiya) Role: 副実行委員長 / 硯造形家 (雨端硯本舗 当主)
元禄年間から続く硯 (すずり) づくりの伝統を継承。
硯に向かう行為を「禅の石庭」での瞑想と同義と捉え、
自身の内面と向き合う「精神の器」として、現代彫刻の可能性を追求する。



【Nature & Space / 自然と空間】

伊東 正次 (Masatsugu Ito) Role: 副実行委員長 / 日本画家
樹木や岩、野仏を主題に、自然の息吹を描き出す。美術館の枠を超え、
古民家やホテルなど「生活空間」そのものをキャンバスに見立て、アートと日常の境界線を溶かす試み続ける。



【Fiber & Academism / 繊維と知性】

加藤 良次 (Ryoji Kato) Role: 顧問 / 染色家 / 横浜美術大学 学長
スクリーン捺染による染色研究や、幻の「日本茜染」プロジェクトを牽引。
大学学長としての広い視野と、素材を探求する研究者としての眼差しで、伝統技術の革新を支える。

■ Participating Artists (参加アーティスト一覧) ～多様な領域が響き合う、創造の連鎖～

Painting: 上田葉介 (油彩)、柏原恵美 (油彩)、棚町宣弘 (日本画)、新川美湖 (日本画)、工藤耀日 (墨彩)

Sculpture & Object: 上野玄紀 (抽象彫刻)、若林克友 (彫刻)、長谷川創 (金属造形)、あさのゆき (オブジェ)

Print & Contemporary: 小林文香 (木版画)、浅川洋 (現代アート)、渡邊一仁 (現代アート) ほか 総勢約 40 名

物質と対話し、精神（こころ）を形にする
山梨が世界に誇る、アーティストたち

作家：Artist

4年ごとの「祝祭」と、3年間の「醸成」
文化を深く・永く育む、創造的な循環（サイクル）

一過性のイベント消費からの脱却。

「ハレ（非日常）」と「ケ（日常）」のリズムが、地域のブランド価値を最大化する。

Phase 1: 醸成の期間（Maturation Period / 3 Years）

～日常に、アートが染み渡る～

芸術祭のない3年間は、文化の土壌を肥やす「ケ」の時間です。

アーティストが地域に滞在し、職人との技術研究や、小さなアート展・ワークショップを重ねます。

ワインが樽の中で熟成するように、地域住民との対話を深め、次なる創造の種を蒔きます。

Phase 2: 大祭の年（The Quadrennial / 1 Year）

～世界へ、文化の精華を放つ～

4年に一度、蓄積されたエネルギーを一気に解放する「ハレ」の舞台です。

熟成された作品群と、圧倒的な非日常体験を求めて、世界中から人々を迎え入れます。

山梨県全域がアートの熱気に包まれ、その成果を未来へと刻みます。

自身の発信力を高め、関係各所と連携しながら独自のPR活動を続けていきます

富士山芸術祭が、もたらす「100年続く、文化と経済の好循環」

「アート」「食」「風土」感性を拓き 五感を満たす、完全なる「体験」

アート (Art & Spirit)

～非日常への扉～

Site-specific Art: 寺院、古民家、酒蔵など、歴史的空間と現代アートの融合。

Global x Local: 海外招聘作家と、山梨在住アーティスト・職人との共演。

Art Tourism: 県内全域を巡る、知的探求の旅（アートツーリズム）の創出。

風土 (Nature & Heritage)

～圧倒的な舞台装置～

Iconic Scenery: 世界遺産「富士山」と「八ヶ岳」が織りなす、日本屈指の景観美。

Craftsmanship: 水晶、印伝、和紙など、13の国・県指定伝統工芸品。

Spirituality: 豊かな自然の中に息づく、日本人の精神性と歴史。

美食 (Gastronomy)

～土地の恵みを味わう～

Terroir (テロワール): 盆地特有の気候が育む「ワイン」「ウイスキー」と、世界に誇る「フルーツ（葡萄・桃）」。

Farm to Table: 地産地消をテーマにした、その土地でしか味わえない特別なダイニング体験。

Food Festival: アート鑑賞の余韻を深める食の祝祭と料理教室。

3つの強みが共鳴し合う「磁場」が、世界の人々を惹きつけ、地域に誇りを取り戻す。

The Renaissance of Yamanashi

For Visitors (来訪者へ)

単なる観光を超えた、魂が震えるような「本物の感動体験」。

For Locals (地域へ)

経済効果（宿泊・物販）の最大化と、自分たちの住む土地への「誇り (Civic Pride)」の醸成。

同じ思いを持つ、様々なプロフェッショナル達の「知」と「経験」

運営体制

石田 泰道（実行委員長／現代美術家／海禅寺住職）

雨宮 弥太郎（副実行委員長／硯造形家）

伊東 正次（副実行委員長／日本画家）

丹沢 良治（顧問／特定非営利活動法人 街づくり文化フォーラム 理事長）

加藤 良次（顧問／染色家／横浜美術大学 学長）

一瀬 茂（顧問／株式会社邦文堂 代表取締役会長）

事務局長 成島 久美子 事務局統括・助成金管理（シルクロードラインおかみさん会 会長）

企画担当 長尾 まこ 企画・アーティスト調整（Art De Wonder 代表）

プロデュース・デザイン 渡邊 リシア 企画、広報、記録（STUDIO16 代表）

会計担当 石田 了子 会計（県立支援学校教員）

※山梨県、各市町村、伝統工芸組合等と強力に連携して推進します。

「山梨の 100 年を、共に描く。」

私たちはアート、そしてこの富士山芸術祭を通じて、
忘れかけていた「生きている」という実感を、静かに、深く、心に取り戻す旅を提案いたします。

4年に一度の祝祭は、山梨の100年続く文化と経済の好循環を、次の時代へ更新する起点です。

郷土の記憶に触れ、山梨が積み上げてきた価値を「未来の資産」へと昇華する。

その先駆者として、貴社の署名をこの物語に刻んでください。

富士山芸術祭 2026 実行委員会